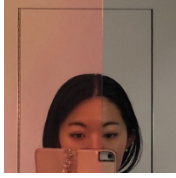




### 岡田佑里奈 Okada Yurina

1995年兵庫県生まれ。京都造形芸術大学大学院芸術専攻ペインティング領域を修了。モデリングペーストの上に写真を転写し、硬化の過程で画面上のイメージにひび割れを起こす手法で作品を制作。「(作品は)コントロールの仕切れない一回性と偶然性により成り立っている。」と岡田が語るように、写真と絵画の間を探る新たなアプローチを試みている。近年参加した主な展示はTEZUKAYAMA GALLERY/VIEWING ROOM (大阪、2021)、biscuit gallery Opening Exhibition I (東京、2021) など。



### 土取郁香 Tsuchitori Fumika

1995年兵庫県生まれ。京都造形芸術大学大学院芸術専攻美術工芸領域修了。親密な距離関係にある2人の人物を描いた《I and You》、風景の中から色やかたちなどの要素を抽出した《a scene》の2つのシリーズを中心に絵画を制作。絵画を構成するものの物質性や虚構性とたむれ、具象と抽象のあいだを揺れ動くようなイメージを特徴とする。近年の個展に、「骨と皮(火を灯す・薔薇をみつめて来なければ)」WAITING ROOM (東京、2020)、グループ展に、「Kyoto Art for Tomorrow 2021-京都府新鋭選抜展」京都府文化博物館 (京都、2021) など。



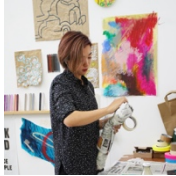
### 藤田紗衣 Fujita Sae

1992年京都府生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻版画修了。版によってあらわれるイメージに着目し、シルクスクリーンやインクジェットプリントなどの複製技術を用いて平面作品、アートブックの制作を行う。2015年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (ロンドン) 版画専攻短期交換留学。近年の主な展示に、個展「ハード/ソフト」I SEE ALL (大阪、2021) など。



### 藤本純輝 Fujimoto Atsuki

1997年三重県生まれ。京都芸術大学大学院芸術専攻美術工芸領域油画分野修了。藤本の絵画は、モチーフや素材、色や絵具の配置などを慎重に選び、画面が構成される。布地や絵具の塊による素材の群生は、オリーブの木や露草、朝顔といった身近な植物の図像へと変容し、また同時に素材としての布地や油絵具の個性をさらに浮き上がらせる。本展では新作を中心に草花が群生している庭の光景をつくり出す。2021年「ARTISTS' FAIR KYOTO 2021 Akatsuki ART AWARD」では優秀賞を受賞。



### 油野愛子 Yuno Aiko

1993年大阪府生まれ。京都芸術大学大学院美術専攻総合造形領域修了。幼少期に想像していた未来への夢や期待を、日常にみる現実社会との違いを交えて制作。子どもから大人になる過程に生まれる違和感、悲しみ・喜び・怒りといった感情の束の間の衝動を、絵画やブロンズ作品、インスタレーションなど多岐にわたる手法を用いた表現で試みる。2017年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (ロンドン) 短期留学。2018年関渡美術館交換派遣研究員レジデンスプログラム (台湾) に参加。2017年CAF賞入選 (東京)、2019年群馬青年ビエンナーレ入選 (群馬)。



### 池田光弘 Ikeda Mitsuhiro

1978年北海道生まれ。京都芸術大学准教授。2006年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。2013年ポーラ美術振興財団在外研修員 (ベルリン)。2005年「新・公募展」広島市現代美術館 (広島) 優秀賞、2007年「VOCA 展 2007」上野の森美術館 (東京) VOCA奨励賞。近年の主な個展に、「dawn」Satoko Oe Contemporary (東京、2020)、「Portrait of place」Soka Art Center (台湾、2015)、「location/dislocation」シュウゴアーツ (東京、2012) など。2010年、グループ展「絵画の庭」国立国際美術館 (大阪)、「Art in an Office」豊田市美術館 (愛知)、「現代絵画の展望」東京ステーションギャラリー (東京) に参加。



Photo: Daisuke Ohmori

### 薄久保香 Usukubo Kaoru

栃木県生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻准教授。2010年東京芸術大学大学院美術研究科博士課程美術専攻修了博士号 (油画) 取得。フォトリアリスティックな表現を可能にする精緻なテクニックとシュールレアリスティックな主題とする。相反するかのような二つの要素をまとめあげ、独特の幻想的な作品世界を構築する。近年の展覧会に「SF -Seamless Fantasy 絵画計画と43,800日の花言葉」MA 2 gallery (東京、2021)、「New Paintings from Kyoto-Kaoru Usukubo and Daisuke Ohba」LOOCK (ベルリン、2020)、「神宮の社芸術祭」明治神宮ミュージアム (東京、2021) など。



Photo: You Ishii

### 大庭大介 Ohba Daisuke

1981年静岡県生まれ。京都芸術大学大学院准教授。2007年東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野修了。近年の主な展示に、「絵画-現象の深度」SCAI THE BATHHOUSE (東京、2021)、「New Paintings from Kyoto-Kaoru Usukubo and Daisuke Ohba」LOOCK (ベルリン、2020)、「INTERPRETATIONS, TOKYO —17世紀絵画が誘う現代の表現」原美術館 (東京、2019)、「The Ubiquity of Borders: Japanese Contemporary」Gallery Baton (ソウル、2018)、「白の表現力〜現代のコレクションから〜」静岡県立美術館 (静岡、2015) など。



Photo: 藤山誠

### 鬼頭健吾 Kito Kengo

1977年愛知県生まれ。京都芸術大学大学院教授。京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。インスタレーションをはじめ絵画や立体など多様な表現方法を用いた作品を国内外で発表。2010年文化庁新進芸術家海外研修員 (ベルリン)。代表的な展覧会に「Full Lightness」京都市セラ美術館 (京都、2020)「Migration」群馬県立近代美術館 (群馬、2015)、「Mono-no-Aware」エルミタージュ美術館 (パリ、2013-14)、「六本木クロッシング2007: 未来への脈動」森美術館 (東京、2007-08)、「ベリー ベリー ヒューマン」豊田市美術館 (愛知、2005) など。